

令和6年4月1日

令和6年度 学校経営計画

東京都立上水高等学校長
鈴木 信也

教育目標

創 造 体験学習を通して視野を広げ、教養を深めるとともに、豊かな創造性と表現力を育てる
自 律 生徒一人ひとりの個性を伸ばし、自らの進路に向けた意欲を育て、自己実現を図る
信 頼 自ら考え、自ら行動できる力を育てるとともに、他者と協調し、国際社会に貢献する国際人としての資質向上を図る

I 目指す学校像

スクール・ミッション

「創造」「自律」「信頼」を教育目標に掲げ、普通科単位制の特徴を生かして、生徒の可能性と個性を伸張する教育及び人間性を育成する教育を行う。幅広い教養と確かな学力を身に付け、国際理解教育とコミュニケーション能力向上を推進し、思いやりの心や地域及び社会に貢献する心を育成する。

(1) グラデュエーション・ポリシー

多様な他者や変化する社会を理解し、自己の目標に対して主体的な努力を継続できる人間を育成する。

(2) カリキュラム・ポリシー

本校の教育目標を達成するために、以下の基本方針に基づき、生徒の生きる力を育む、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する。

- 1 進学・特活型教育を目指し、多様な体験を通して学ぶ喜びを体得させ、学びに向かう力を育成する。
- 2 元気に挨拶でき、自らを正しく表現すると共に多様な他者と協調することができる人間力を育成する。
- 3 生徒が自ら進路目標を掲げ、目標に向かって努力し、自己実現できる進路挑戦力を育成する。

(3) アドミッション・ポリシー

体験的な国際理解教育や表現力の育成、多彩な選択科目、一人ひとりに丁寧な生活指導を特色とし、学習活動や特別活動及び部活動の両立ができる生徒の育成を目指している。これに基づき、次の各項目に該当する生徒の入学を希望する。

- 1 本校の特色ある教育活動を理解し、積極的に取り組もうとする意志が明確な生徒
- 2 大学進学など将来へのしっかりとした目的意識をもっており、入学後も学習活動に対して意欲的に取り組むことができる生徒
- 3 特別活動や部活動に積極的に取り組み、学習活動との両立を図ることができる生徒
- 4 中学校での授業及び諸活動等に積極的に取り組み、学習成果及び意欲的に取り組んだ活動・体験について自信をもって語れる生徒

II 中期的目標と方策

- 1 普通科単位制『進学・特活型』教育を推進し、学力向上を図り、生徒の可能性を最大限に伸ばす。
- 2 生徒が自ら進路目標を高く掲げ、その目標に向かって努力し、自己実現できる進路指導を実践する。
- 3 留学生等との交流や発表活動等を充実させ国際理解教育推進とコミュニケーション力、表現力の育成を図る。
- 4 生徒が元気に挨拶をし、基本的生活習慣、社会的規範をしっかり守る活気あふれる学校を目指す。

- 5 生徒が、勉強に、部活に、学校行事に、自分の可能性を信じて最大限に努力する態度の育成を図る。
- 6 生徒・保護者及び地域の視点に立って、開かれた学校づくり、地域から信頼を得る学校づくりを推進する。

カリキュラム・ポリシー	取 組 目 標
進学・特活型教育を目指し、多様な体験を通して学ぶ喜びを体得させ、学びに向かう力を育成する。	「考える力」の育成による主体的・対話的で深い学びの実現 授業改善、講習や家庭学習の充実等による主体的学習習慣の確立 全教科による国際理解教育の推進と人間力の育成 「生徒」が主語になる教育活動の推進
元気に挨拶でき、自らを正しく表現すると共に多様な他者と協調することができる人間力を育成する。	挨拶の徹底、社会的資質の向上 部活動と学校行事の充実 個に応じた指導・支援の充実とインクルーシブな教育の推進 社会貢献意識の啓発、地域との連携・協力体制の確立
生徒が自ら進路目標を掲げ、目標に向かって努力し、自己実現できる進路挑戦力を育成する。	3年間を見通した系統的かつ組織的な進路指導の充実 自己理解、自己啓発を通して主体的に進路を切り拓き自己実現を図る意識の育成 「正解」と同様に「納得解」も大切にする進路選択力の育成

3 今年度の取組目標と方策

【 「やり抜く力」の育成と生徒が主語になる教育活動の実践 】

(1) 教育活動の目標と方策

① 学習指導（「考えさせる授業」の定着）

- ア 「やり抜く力」を合言葉に、自分の未来を創造する意欲とともに、生徒に希望進路実現に沿う学力や実践力を身につけさせる。
- イ やり抜く力の育成ために「生徒に考えさせる」授業を一層推進する。
- ウ 授業外学習時間の増加を図るため、各教科が工夫した学習指導を推進する。
- エ 生徒の課題解決意欲を引き出し「生徒が学ぶ」授業を推進する。
- オ 教科の枠を超えた相互授業見学や学校の枠を超えた研究授業参加等から、そこで得られた改善点を生徒に還元することで、教員相互の授業力の一層の向上を図る。
- カ 教職員のデジタル技術の活用力を高め、オンライン学習活用の着実な定着を図る。
- キ 高大接続改革を生徒の期待に応えるよう、具体的な動きをもって推進する。

② 進路指導（「やり抜く力」の意識づけ）

- ア 創造的な自分の未来を「自分が決める」という意識改革をより推進する。
- イ 「やり抜く力」を育てるため、将来を見通した視野と自律心を育みながら、希望進路実現に果敢に挑戦する意欲の向上をより推進する。
- ウ 教科会において模試等の結果に基づく分析会を実施し、教科として対応策を検討し実践する。
- エ 進路部が主導して、民間活力を活用した受験指導を推進させる。

③ 生活指導・安全指導（規律ある学校生活の定着）

- ア 生徒が自ら誇りをもって、主体的に本校の生活規律を守り改善する態度を育成する。
- イ いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組むため、学校いじめ防止対策委員会機能や学校カウンセリング機能を充実させ、学校全体で情報共有し、いじめ総合対策に基づいた対応をより推進する。
- ウ 校内研修を通して教職員同士が体罰に対して相互に看過しない体制づくりを推進する。
- エ 本校SNSルールを生徒会が中心に検討・改善し、生徒へ周知していく環境を定着させる。

オ 自転車安全運転指導により、ヘルメット着用について必須とする組織的対応を図っていく。

④ 特別活動・部活動（「やり抜く力」の実践的育成の場）

ア 各行事は、体調・時間管理等を徹底した上で、「生徒が打ち込む」場としての工夫を図る。

イ 事前指導を徹底し、各行事の実行委員が自らの判断で動けるような自律的な行動力を育む。

ウ 体罰や不適切な言動のない指導を前提に、「生徒が打ち込む」部活動づくりを一層推進する。

エ 「Sport-Science Promotion Club」の指定を受け、運動部・文化部ともに相乗作用として部活動の活性化を推進する。

オ TOKYO GLOBAL GATEWAY 事業を活用したグローバル人材育成を継続する。

⑤ 心身の健康づくり（健康生活への組織的対応の推進）

ア 「保健だより」を活用し、内外に相談業務の見える化を図る。

イ 教員の受容的態度を基本に日常的に生徒の状況を把握し、全教員が必要な情報を共有するとともに、各学期初めには生徒の状況確認を確実に行之、心身の健康づくりと早期ケアを充実させる。

ウ 配置されているスクールカウンセラーを活用した校内研修等を通じて、学校の相談体制・教員のカウンセリングマインドの向上を推進する。

エ 特別な支援が必要な生徒への共通理解と組織的な対応を推進するため、特別支援コーディネーターを中心にして個別案件に丁寧に対応し、インクルーシブな教育を推進する。

オ 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づいて体力向上を図り、心身の健康づくりを一層推進する。

カ 自他の生命の大切さを実感させる取り組みやSOSの出し方に関する教育を推進するため、組織的な相談体制を充実させ、生徒の心身の悩みに対応するとともにいじめ撲滅を強く決意していく。

⑥ 募集広報活動（情報発信・提供の強化と地域連携）

ア ホームページの随時更新等 SNS の活用により、本校の教育活動をタイムリーに発信し、中学生やその保護者、地域の方々の本校に対する興味・関心および理解と信頼を得る。

イ 個性ある普通科単位制校として、その取り組みや成果の「見える化」をより推進していく。

ウ 近隣中学校と連携を図り、中学校教員や中学生保護者の本校理解をより推進する。

エ 学校説明会や学校見学会等において本校理解をより推進するため、都立高校 PR 事業に沿い学校見学会開催を図る等、期待に応える本校をアピールしていく。

⑦ 学校経営・学校運営（連携と育成、体制の確立）

ア 西部学校支援センター支所との連携を密にし、職務の効率化を図り学校経営の基盤をより強化する。

イ OJT を活用して各職層の人材育成を図り、課題解決に取り組む活気ある校内体制を推進する。

ウ 生徒や保護者、地域住民からのアンケートに基づいた「期待に応える学校づくり」を推進する。

エ 管理職が率先して「ライフ・ワーク・バランス」を示し、計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、全教職員の働き方改革プランを一層推進する。

⑧ 個性ある普通科単位制校として（やり抜く力の発揮）

ア 国際理解教育の一環として、スピーチコンテスト・進路探索研修旅行等各種行事や資格・検定の獲得に向けた取組を通じて、国際的感性やコミュニケーション能力を育成する。

イ 「表現」（学校設定科目）を通して、その内容の充実を図りながら、自分自身が打ち込んだ選択科目について自信をもって実践していく自己表現力を育成する。

ウ ブリッジ（総合的な探究の時間）により 3 年間を見据えた進路指導を実践し、生徒一人ひとり「正解」

もしくは「納得解」の中で希望進路実現に向けて果敢に挑戦する能力や態度を育成する。

(2) 重点目標と方策

- ① 「やり抜く力」の育成 生徒一人ひとりに、困難にあってもあきらめない勇気を育成する。
- ② 「考えさせる授業」の定着 各教科で生徒の学力・能力等を分析し、指導内容を検討する。全教員が考えさせる授業の実践という観点で相互授業観察を実施。
- ③ 教職員のデジタル技術の活用力向上 様々な場面でのオンライン活用を生徒の実態に合わせて推進。
- ④ 授業外学習時間の増加 各教科が計画的に推進。補習・補講体制確立。勉強部のより効果的な活用。
- ⑤ 読書活動の推進 授業やHR等も含めた教育活動全体で図書館の意図的活用をより推進する。

令和6年度の数値目標と昨年度の実績

数値目標	令和5年度 実績	令和6年度 数値目標
① 進路決定率	92.5%	95%
② 大学入学共通テスト受験者数	119名	140名
③ 特色ある大学等合格者数 ア 国公立・早慶上理GMARCH合格者 イ 医療・看護系大学等合格者	ア 27名 イ 18名(全員合格)	ア 30名 イ 希望者全員合格
④ 資格取得 ア 英語検定準2級以上 イ パソコン検定タイピングレベルA ウ 漢字検定準2級以上	ア 183名 イ 161名 ウ 6名	ア 190名 イ 165名 ウ 10名
⑤ 部活動加入率	92.4%	93%
⑥ 部活動 好成績 都ベスト16、関東・全国大会等	8部	8部
⑦ 図書館貸出冊数	2700冊	3000冊
⑧ 異校種(小中学校等)との連携	35回	35回
⑨ 学校説明会等参加人数 (中学生・保護者合計)	2100名	2500名
⑩ 入学者選抜応募倍率 ア 推薦入学 イ 学力検査	ア 2.9倍 イ 1.40倍	ア 3.0倍 イ 1.45倍
⑪ 生徒の授業満足度 (考えさせる授業の実践として)	89.5% (先生は丁寧に答えてくれる)	100%
⑫ 学校満足度(肯定的回答) ア 生徒 イ 保護者	ア 88.9% イ 87.9%	ア 100% イ 100%

